

小学校における方位概念の形成

秦 澄江・秦明德

SUMIE Hada, AKINORI Hada

SIMANE Hime

松江市立八雲小学校^A 島根大学教育学部^B

【キーワード】：方位、巨視的空間認識、実態調査、
太陽の動き 影の長さや向き

1. 研究の意図

巨視的空間認識を育成していく上に、方向の概念は、基本的で重要な事柄である。子ども達と接していくと、いろいろな場で、方向、空間認識が育っていないことが多いと感じている。そこで、方位概念の育ちについての実態を調べるとともに、学校教育の中での学習内容を検討し、問題点を探ってみたいと考えた。

2. 実態調査の内容・方法、及び対象

方位概念を探るために次のような実態調査を行った

- ① 北を指定した場合の方角〔東・西・南〕
- ② 場所移動した場合の方位磁針の向き
- ③ 場所移動した場合の対象物の方位
- ④ 自分の生活空間の方位とそれがわかる理由
- ⑤ 影の長さ
- ⑥ 影の向き
- ⑦ 太陽の動き
- ⑧ 月の動きや形
- ⑨ 星の動き

方法は、アンケート用紙を使って、担任の教師によるものである。また、対象は、同一校の3・4・5・6年生、それぞれ60人程度で行った。

3. 指導要領における内容の取扱い項目の変化の経緯

平成11年の小学校学習指導要領理科の改訂においては、〔C 地球と宇宙〕の内容の取扱いについて次のような変化が見られる。

平成元年

〔第3学年〕

ア 校舎によってできる日陰や、物によってできる影の範囲や位置を観察して、太陽が影の反対側にあることを見いだすことができるようにする。

第5学年

(1) ア・・・1日の気温の変化と太陽高度、雲、雨、降水などとの関係を時間的変化の目を向けながらとらえたり・・・

(2) ア・・・太陽や月は東の方から出て南の空をとおり西の方に入ることを推論できるように・・・

平成11年

〔第3学年〕

(1) のアについては、太陽が東から西に動くことを取り扱うものとする。また、太陽の動きを調べるときの方位は、東、西、南、北にとどめるものとする。

・・・太陽の位置を数回調べ、太陽が東の方から西の方へに動くことをとらえるようにする。

〔第4学年〕

(1) ア・・・月の位置を時間と関係付けて調べ、月は絶えず動いていることをとらえるように・・・

〔第5学年〕

(1) ア1日の気温の様子を調べてグラフに表すと・・・このことから、「1日の気温の」変化の仕方は、天気によって違いがあることをとらえるようにする。

以上のように、平成元年は、3学年5学年の2回にわたって太陽の動きを学習し、方位との関係や天気と高度との関係を理解させようとしている。それに対し、平成11年の指導要領では、太陽についての学習は、3学年のみとなり、太陽の動きの学習は、東から西へという動きと方位だけの学習になり、中学3年まで太陽については学ばないようになっている。。

以上のことから、実態調査の結果を踏まえ、考察していきたい。